



公正な研究を目指す研究機関と研究者に向けた 科学論文の不正画像検出システム

全ての研究に透明性を

公正な研究への取り組みは学术界で大きな注目を集めています。ImaChek (イマチェック) は、研究活動における不正行為のうち、「画像の使い回し」や「不適切な画像改ざん」をネット上で検出するシステムです。膨大な画像を一枚一枚確認するためには、専門的な知識や膨大な時間と労力が必要です。

ImaChekは、最新のアルゴリズムを利用して、電気泳動画像、蛍光顕微鏡画像、組織染色画像などの生命科学にかかわる「画像の使い回し」や「不適切な画像改ざん」を検出します。検出後は、検出した結果をPDFファイルで出力する事が可能です。

ImaChekは、簡単操作で瞬時に解析

学術論文及び原画像をアップロードすると自動的に画像が抽出され、不正画像と思われる画像の検出を行います。最終的な検出結果は、PDF形式のレポートとしてダウンロード出来ます。



1st Step
画像をアップロード

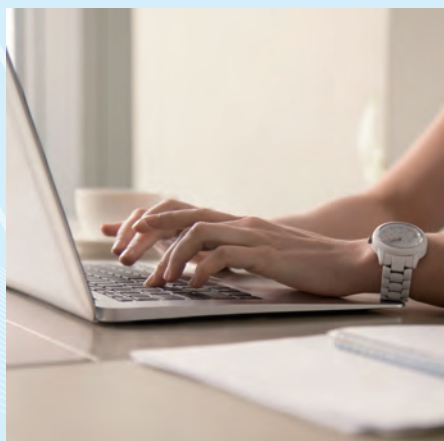


2nd Step
画像の解析



3rd Step
PDFレポートのダウンロード

ImaChekによって改善できること



論文の品質担保および向上

論文投稿前に画像をチェック、研究画像不正と疑われるリスクを低下させ、論文の信頼性、品質を向上します。



レピュテーションリスクの軽減

研究不正発生によるレピュテーションリスクやコストは甚大なため、事前チェックで研究不正を防止します。



出版までの時間短縮

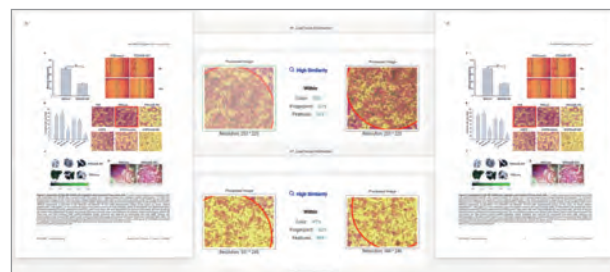
手動で行なっていた画像検査を自動化することで、出版までの作業を効率化させ、迅速な出版が可能です。

ImaChekによる不正画像の解析

画像の使いまわし解析 (Duplication)

2016年のNature Newsにて報告された調査によると1本の学術論文で画像を不正に使い回す頻度が2000年前半に2倍に増加しました。

論文中に使用する画像データの増加に伴い、意図せずに誤って研究画像を使い回してしまう事も考えられます。その場合、研究機関や研究者の信頼を損なってしまいます。ImaCheckでは、学位論文・学術論文における画像の使い回しを解析し検出いたします。



不適切な画像操作の解析(Manipulation)

2015年のNature Newsによると、EMBO press誌では、投稿された約20%の論文に不適切な画像処理があると報告しています。

不適切な画像の改ざんには、「beautification」など画像の見栄えをよくするために画像処理など初心者がやっぴがちな意図しない画像不正と、「Cut & Paste」などの意図的な画像不正があります。

画像の使い回しと同様に、現実的な防止策の実施が、求められております。

ImaCheckでは、学位論文・学術論文における意図しない画像不正をはじめ、意図的な画像の改ざん等を解析し検出いたします。

